

(2/3)
福

美浜1号機でも 1次冷却水漏れ

先月8日

関西電力は二日、廃炉措置に向けて準備している美浜原発1号機（美浜町）の原子炉補助建屋のポンプで、放射性物質を含む一次冷却水が四割ほど漏れるトラブルがあったと発表した。周辺環境への影響はないという。

関電によると、水漏れしたのは、一次冷却水を浄化してホウ酸濃度を調整し、再び同冷却水系統に戻すためのポンプ。十一月八日午後一時半ごろ、ポンプ下部のカバーと配管の隙間から水漏れを発見。「漏れ出た放射性物質量が法律に定めた基準値以下」だったため、月報で公表した。

点検後の試運転の際、いったん抜いていた一次冷却

水をポンプに通したところ、部品の締め付けが弱く通常よりも多い量の水が循環。換気系の配管に流れ込んで、ポンプのカバー内に水がたまっていたとみている。県内の原発では十一月三

十日、運転停止中の日本原子力発電の敦賀原発2号機（敦賀市）で、作業員十人に水がかかる一次冷却水漏れが発生。廃止措置中の日本原子力研究開発機構の新型転換炉「ふげん」（敦賀市）でも同日、放射性物質を含まないタンクなどの洗浄用水約六トがあふれており、水漏れのトラブルが相次いでいる。（尾嶋隆宏）